

# 「つなぐ」プロジェクト

## ～無線通信による災害時の情報伝達を確実に行う活動～

代表者 西山 佳那 (創造工学部防災・危機管理コース2年)

### 1. 目的と概要



香川大学学生総合防災無線局エンブレム

このプロジェクト事業の活動理念は、近未来、発生すると考えられている南海トラフ巨大地震や大規模自然災害発生時に正確な情報伝達手段・方法を確立し、保守することである。これを行うことにより、情報の四国の情報統括体制を変えていく。プロジェクトの事業概要は、昨年度に引き続き、災害時の情報伝達や無線通信の重要性を大学や地域・社会に向け発信することを主たる目的とする。災害時には有線通信が使用できなくなり、情報伝達が困難になる可能性があるが、無線通信は生き残り情報を伝えることが可能である。東日本大震災でも、多くの地域で有線通信が途絶えてしまった。そのような状況下でも、無線通信を

用いてライフラインの寸断や救助要請等の重要な連絡通信を行ったことで、数々の命が救われた。

本事業は、以下の三項目を事業目標とする。

- ・ 災害時に不可欠である無線の重要性を『発信』する。
- ・ 災害時に不可欠である無線に関わる人員を『育成』する。
- ・ 災害時に不可欠である無線を『活用』する。

### 2. 実施期間 (実施日)

令和5年4月1日から 令和6年3月31日まで

### 3. 成果の内容及びその分析・評価等

#### 【学内連携】

##### ・ 香川大学学生危機管理連合への参画

本無線局が学内の危機管理に関する団体へ連携強化（連合組織設立）を提言し、令和2年7月、「香川大学学生総合防災無線局」「香川大学防災士クラブ」「香川大学防犯パトロール隊」の3団体が新たに創設した「香川大学学生危機管理連合」に加盟した。



香川大学学生危機管理連合エンブレム

##### ・ 香川大学防犯パトロール隊と協力連携した取り組み（無線支援）

このプロジェクト事業の一つとして、本無線局では、平時から無線に慣れている若年層を増やすことや通信のできる範囲を確認する目的で香川大学防犯パトロール隊と協力する形で月に3～5回程度、無線本部として情報を集約し発信するなどの無線支援を行っている。これによって、メンバーの無線通信を行う回数が増え、無線を使うことに慣れることが出来たと感じている。また、パトロールは幸町キャンパス周辺で行われているが、私達は幸町キャンパスや林町キャンパスで無線通信を行ったため、実際に離れた距離でも無線によって通信できると実際に感じられたと思う。

##### ・ 非常通信訓練の実施

非常通信訓練を行う事で、災害が起こったときのよりよい情報の伝達の仕方等を考えた。前年度先輩方から学んだ方法を元に、自分たちでより簡潔に・正確にコミュニケーションを取ることができる伝達方法を模索し、改良を重ねていった。



#### 【学外連携】

##### ・ アマチュア無線交信講義

地域のアマチュア無線家の方々を招いて、講習も行った。

そこでは新しく学ぶ内容が多く、無線機について様々な知識を学ぶことができた。

具体的にはアマチュア無線機の使用方法や、アマチュア無線機を活用したコミュニケーション方法、アマチュア無線に関連する内容（HAMLOG・モールス信号）といったものであり、今後の活動の参考にしようと考えている。



#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、香川防災アマチュア無線クラブの皆様を通して活動内容の周知や拡大を行う事ができた。

また、学外に対しては主に、香川防災アマチュア無線クラブの方々を中心に無線従事者の方々に影響を与えることができた。

放送大学の方から活動内容などについてお問い合わせをいただくなど、実際に外部に対しても影響を与えていることがわかる出来事があった。

このことは継続している活動の効果が表れているのではないかと考える。

昨年度に引き続き、地域のアマチュア無線家の方々と交流することでキー局として、有事の際に互いに収集した情報の共有や発信をおこなうことや地域のアマチュア無線コミュニティに属することにより、非常通信を効率的に実施することが可能となっている。

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

アマチュア無線に関連する内容（HAMLOG・モールス信号）について、知識面や技術面においてご指導いただいたことにより、活動内容の拡大に効果が出たと考える。

ドローンを用いた活動の他にも、今後やりたいと思う活動内容が増えたので、実際に活動ができるように計画を立てていこうと思っている。

#### 6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

主に反省点としては、実際にドローンを飛ばすことができなかったことである。

今後は改めて、ドローンに関連する法律、操作方法を学んでいき、実際にドローンを飛ばすことを考えている。

具体的にはまずドローンに関する法律・操作方法を簡潔にまとめた資料を作成しメンバーに共有、日程調整を行い現存している部員のみでドローンを実際に飛ばそうといった内容を予定している。

## 7. 実施メンバー

代表者 西山 佳那 (創造工学部 2年)  
構成員 富永 侑駿 (創造工学部 4年) 堀切 瑞月 (創造工学部 2年)  
大月 桃女 (創造工学部 2年) 地浦 花菜海 (創造工学部 2年)  
原 英里奈 (創造工学部 2年) 塩崎 雄己 (経済学部 4年)  
山田 伽羅 (創造工学部 1年) 近藤 佑紀 (創造工学部 1年)  
稲富 悠子 (創造工学部 1年) 松浦 和輝 (創造工学部 1年)  
太田原 朱里 (創造工学部 1年)

## 8. 執行経費内訳書

配分予算額		200,000円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
アマチュア無線 電波利用料	2	300	600	
デジタル簡易無線 電波利用料	5	400	2,000	
ガスボンベ	10	1,098	10,989	
カラーLEDプリンタ	1	53,790	53,790	
DJI Mini 2 Fly More コンボ	1	59,730	59,730	
合計			127,109	